

「2021 歯科技工所アンケート」からみる歯科技工問題

K. D. A Laboratory 雨松 真希人（歯科技工士）

【はじめに】

歯科技工士を取り巻く状況は、低すぎる技工料から慢性的な長時間労働・低賃金となっており、養成学校を卒業後5年以内に75%が離職するという異常事態となっている。そのことで今後の担い手不足が危惧されている。

そのような中、コロナ禍での歯科技工士(所)の実態を把握するため、「保険でより良い歯科医療を」兵庫連絡会では「2021 歯科技工所アンケート」を実施した。

【成果】

以前から厳しい状況にある歯科技工士ではあるが、今回のアンケートからは新型コロナの影響を大きく受けているにもかかわらず、支援策もない状況や技工物の受注減少、相談先がないなどといった歯科技工士の孤立が明らかとなった。

【まとめ】

保険点数という公定価格に対して、歯科技工料は自由競争の市場価格という矛盾した制度設計を持ち込んでいるという根本的な問題に加えて、アンケートからはコロナ禍という非常事態だからこそ見えてきた問題があった。